

若者・市民活動団体・事業者へのインタビュー調査結果

(1)目的

アンケート調査やワークショップとは異なる視点から地域コミュニティ組織の活性化のヒントを探る。

(2)実施概要

地域コミュニティの今後の在り方検討部会(協働のまちづくり推進委員会における部会)において検討した質問項目について市職員がそれぞれの団体へインタビューを実施。

①若者

団体	・大牟田わかもの会議 ・ おおむたミライ会議
インタビュー協力者	各団体へ依頼し、参加していただいた方々 計6名

②市民活動団体

団体	・ NPO 法人子援会 ・ NPO 法人駿馬人情ネットワーク ・ NPO 法人つなぎ te おおむた
インタビュー協力者	団体の代表者または設立者

③事業者

団体	・ 三井化学 大牟田工場 他4社
インタビュー協力者	企業の代表者または担当課長もしくは担当係長

(3)インタビューにおいて出された意見の概要

①地域コミュニティ組織のイメージ・活動内容等

- ・個人としては知らないが両親は知っていると思う。(若者)
- ・ずっと会議がある。高齢者の集まり。(若者)
- ・活動について把握している。また既に地域コミュニティ組織に加盟若しくは連携した活動の事例がある。(市民活動団体)
- ・地域貢献活動は全ての会社で行われているが、まちづくり協議会または町内公民館や自治会と連携した事業は少ない。(事業者)

②どういった活動や組織がこれから(も)必要か

- ・高齢者だけのコミュニティには若者は集まらない。公民館などのエリアにとらわれず、もっと広範囲で目的を一つにしたコミュニティとなることで効果的な活動が可能となるのではないか。(若者・事業者)
- ・ボランティアで若者が集まるが、活動場所ではなく、活動内容自体を判断して若者はボランティアに参加している。若者の参加を促すためには、活動内容自体を考える必要がある。(若者)
- ・子どもの居場所がない。自治会がやってもらえると助かる。(若者)
- ・リサイクルなど民間で代替できる活動への若者のニーズは低い。(若者)

③地域コミュニティ組織との関わり

- ・若い人にも面白そうだと届くことが必要。若い人をターゲットにしたイベントなど。(若者)
- ・行ける時に行く、行けた時に明るく迎えてくれる気軽さが必要。活動に参加できないこともあるので

参加が必須になると加入すること自体躊躇する。(若者)

- ・決まりごとは暗黙の了解にするのではなく、なるべく目に見える形にする。(若者)
- ・加入前に活動内容を明示する。活動内容が不明な状態での加入は困難。(若者)
- ・加入前に活動を体験できる機会があると良いと思う。(若者)
- ・地域の代表者、市の関係する課で事前ミーティングの場づくりが必要。(市民活動団体)
- ・依頼があれば地域コミュニティ組織への連携・協力は検討できる。(市民活動団体・事業者)

④その他

- ・まちづくり協議会や町内公民館・自治会の役員手当も形ばかりの手当とするのではなく、責任や内容に応じた手当に見直していかないと成り立たない。(市民活動団体)